

福岡県のほぼ中央に位置する嘉麻市は、2016年の熊本地震直後から市庁舎の建設計画をスタート。安心・安全の確保とイニシャルコスト削減の両立を追求した結果、2020年3月、コンクリートの表情が際立つ彫刻的デザインの市庁舎が完成しました。照明設計では、コンクリートの質感と硬質な空間を演出するにふさわしい器具や配置方法が採用されています。

地上6階建ての新築庁舎は、外装面積の最小化や免震層の最小化などが図られた、RCアウトフレームが特徴的なデザイン。全方位から風を取り込み、エコボイドで温度差換気を促進させるなど、周辺の豊かな自然環境を享受できる構造となっており、嘉麻市産杉材を全面にまとった議場ボリュームを、エコボイドが包み込むように上階中央に浮遊させることで、「地域のシンボル」として可視化しています。



撮影:八代写真事務所

照明設計では、打ち放しコンクリートや木質素材など個性的な建築意匠をより際立たせる工夫が多用されています。正面側の2-5階廊下は足元照明が縦軸回転木ブラインドに反射し、ライトアップ効果が生まれ、行燈のように地域を照らす市庁舎を実現。執務室にも4000Kの器具を導入するなど、全体的に3000～4000Kの光色が採用され、温かみのある落ち着いた雰囲気の照明環境が創られています。

安心・安全とコスト削減を両立した建築デザインを、さらに印象付ける照明演出を実現。



1階中央エコボイド 地域産杉材を利用したサインウォールを優しく照らす3000Kの間接照明。天井はLEDライン器具を直付けし落下物リスクを排除。



撮影:八代写真事務所

2-5階西側廊下 西日制御のため縦軸回転木ブラインドを採用。足元の照明が直接で廊下側を照らし、反射板による間接光がガラス側へ導かれる設計。



撮影:八代写真事務所

5階議場 1800mm鉄骨格子梁のグリッド内中央にダウンライトを配置。外周壁面はLEDライン照明の間接光で照らされ、格子梁の浮遊感も演出。



撮影:八代写真事務所

執務空間 鋼管ボイドスラブのRC打ち放し天井には周辺環境の緑が映り込み、照明にはLEDライン照明を3600mmピッチで直付け配置。



撮影:エスエス

4階打ち合わせスペース 嘉麻市産杉材で包まれた「木のボリューム(5階議場)」の下に、開放的なコミュニケーションスペースが広がる。